



NISSAY
B.LEAGUE
FINALS
2020-21

宇都宮
ブレックス
UTSUNOMIYA BREX



VS



千葉
ジェッツ
CHIBA JETS

宇都宮の4季ぶり王座奪還か、千葉の3度目の正直か。

初年度王者の宇都宮が4季ぶりに王座に還るか、それとも2季連続でファイナルに敗れた千葉が悲願の戴冠となるか——。Bリーグの開幕以来、様々なビッグゲームで対戦してきた両クラブがついにファイナルで激突する。

リーグ最高勝率でCSに進んだ宇都宮は、ボール運びからポストアップまでこなせる#22ライアン・ロスターを中心、ロスターほぼ全員が安定したパフォーマンスを発揮できるのが強み。#9遠藤祐亮や#4ジェフ・ギブスが先頭に立って体現する、泥臭いディフェンスとリバウンドで守り勝つ展開が真骨頂だ。一方で、レギュラーシーズンの1試合平均得点はCS出場中最下位と、得点力には多少の不安も。しかしSFのGAME2では、全員でつないだボールを#5LJ・ピークと#6比江島慎が確実に沈め、今季70点以下に抑えられていた川崎に96得点の完勝。安齋竜三ヘッドコーチも太鼓判を押すチーム力を築き上げた。

一方の千葉は、国内最強ガード#2富樫勇樹を起点とした爆発的なオフェンス力が魅力のチームだ。パス、ドリブル、得点と三拍子そろった富樫がゲームを作り、#21ギャビン・エドワーズ、#22セバスチャン・サイズ、#1ジョシュ・ダンカンという強靭なビッグマンたちが躍動。#31原修太と#14佐藤卓磨は思い切りのいいプレーで流れを呼び込み、レギュラーシーズンは思うように活躍できなかった#4コー・フリッピンも、SFの琉球戦で覚醒。磨き上げられた矛を手にして迎えるファイナルで大野篤史ヘッドコーチが求めるのは「質より量」。アグレッシブなプレーからフリースローをもぎとる姿勢が勝敗の鍵を握る。

レギュラーシーズンにおける両者の対戦は、4試合のうち宇都宮が3勝と大きく勝ち越し。しかし、この結果に大した意味はないだろう。すべての者が死にものぐるいで「あと一つ」を求める戦いは、あらゆる前例を凌駕する驚きと興奮、そして感動に満ちたものになるはずだ。